
21世紀ティーチャーズプログラム 年間報告書

2017年 6月



**Teachers
Initiative**

ご挨拶

21世紀ティーチャーズプログラムをご支援いただき誠にありがとうございました。
皆様のご支援により、21世紀ティーチャーズプログラム、第1期を無事修了することができました。

変化が激しく、正解のない時代と言われる21世紀のなかで、
「未来を創っていく子供を育てていく」という使命を持つ学校の先生たちは、
高い志と、深い愛情をもって、日々子供たちに向き合われています。

その一方で、世界一忙しいとされる日本の先生は、社会の圧力さらされ、
自ら成長する意欲を持ちながらも、新しい視点や価値について学ぶ機会も、
創発的に学び合う仲間も得られずに、孤軍奮闘していました。

そうした先生方が全国から集まり、共に未来について考え、
先生とは何かを探究し、未来に向けて自分たちには何ができるのかを話し合い、学び合いました。
そして、大きな意識の変容と、授業力の向上を実現することができました。

まだまだこの活動は始まったばかり。最初の一步を踏み出したに過ぎませんが、
受講生33名、そして今回ご支援いただいた皆様と共に踏み出した、大きな一步だと思っております。
この一步がやがて大きなうねりとなり、社会に届き、未来を創り、
きっと、未来を生きる子供たちの人生を、豊かにしていくと確信しております。

皆様から賜りましたご支援に、心より感謝いたします。本当にありがとうございました。
今後とも、ご指導ご支援のほど、何卒よろしくお願い致します。

一般社団法人ティーチャーズ・イニシアティブ 一同



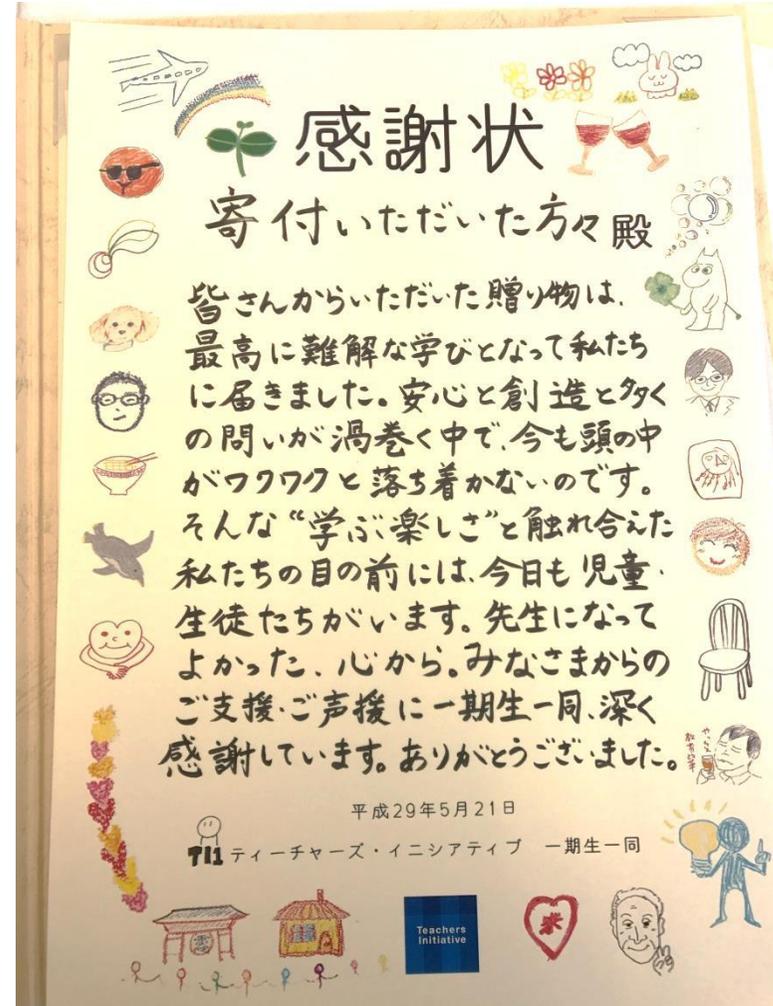
受講生から皆様への感謝の言葉

21世紀ティーチャーズプログラム1期生より、皆様に向けた感謝状を預かっておりますので、この場でご紹介させていただきます。

(本文)
感謝状
寄付いただいた方々

皆さんからいただいた贈り物は最高に難解な学びとなって私たちに届きました。安心と創造と多くの問いが渦巻く中で、今も頭の中がワクワクと落ち着かないのです。そんな“学ぶ楽しさ”と触れ合えた私たちの目の前には、今日も児童・生徒たちがいます。先生になってよかった、心から。みなさまからのご支援・ご声援に一期生一同、深く感謝しています。ありがとうございました。

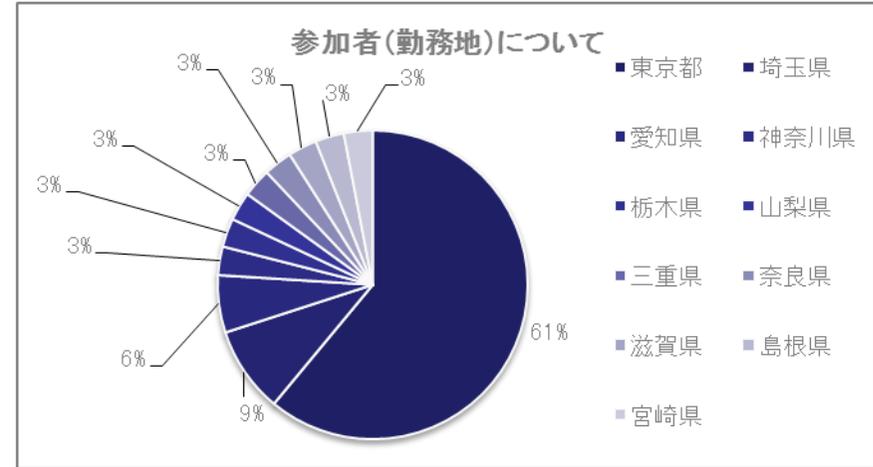
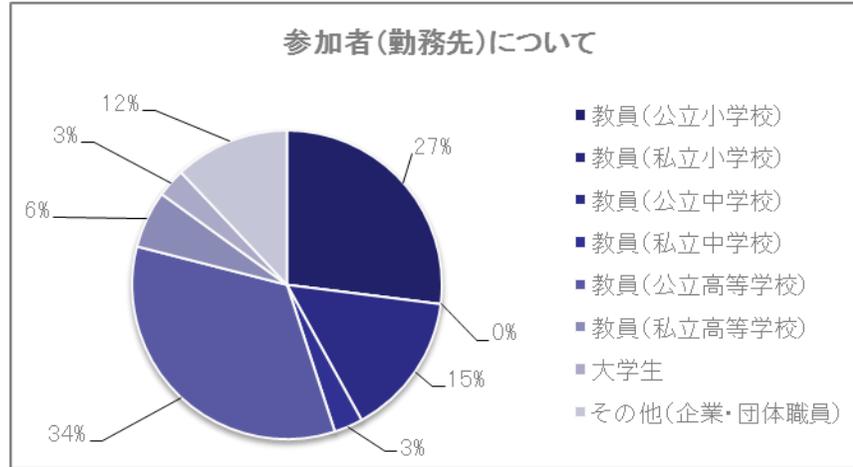
平成29年5月21日
ティーチャーズ・イニシアティブ 一期生一同



21世紀ティーチャーズ・プログラム 振り返り



参加者情報（1期生33名）



<学校教員>

- 【東京都】 公立小学校（6名）、公立中学校（2名）、私立中学校（1名）、公立高等学校（4名）、私立高等学校（2名）
- 【埼玉県】 公立小学校（1名）、公立中学校（1名）、公立高等学校（1名）
- 【神奈川県】 私立高等学校（1名）
- 【栃木県】 公立小学校（1名）
- 【山梨県】 公立高等学校（1名）
- 【愛知県】 公立中学校（1名）、公立高等学校（1名）
- 【三重県】 公立中学校（1名）
- 【滋賀県】 公立高等学校（1名）
- 【奈良県】 私立高等学校（1名）
- 【宮崎県】 公立高等学校（1名）

<学校教員以外>

- 【東京都】 企業（3名）、大学生（1名）
- 【島根県】 企業（1名）



講師

【理事】



米倉 誠一郎
一橋大学イノベーション
研究センター教授



鈴木 寛
文部科学大臣補佐官、
東京大学・慶應義塾
大学教授



児美川 孝一郎
法政大学教授



前野 隆司
慶応義塾大学教授



宮地 勘司
株式会社教育と探求社
代表取締役社長

【ラーニングデザインチーム】



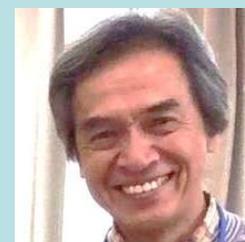
小田 理一郎
チェンジ・エージェント
代表取締役社長兼CEO



土屋 恵子
組織開発コンサルタント



桑原 香苗
日本プロセスワークセンター
ファカルティ
有限会社フィールドシフト
代表取締役



並木 通男
埼玉県立新座総合技術
高等学校教諭、
千葉商科大学客員講師



後藤 拓也
講師・ファシリテーター

プログラム概要

【目指す教師の姿】

- ・変化を楽しみ、学び続ける教師
- ・いつでもどこでも誰とでも、学びのよろこびをつくり出せる教師
- ・未来をつくる志と誇りと技術を持っている教師

【1期生 スケジュール】

プログラム	内容	時期	場所	ページ
キックオフ合宿	教師になった原点を振り返り、教育の課題と未来を考える	8月8日(月)～8月10日(水)	フフ山梨	P.8～
ラーニング・デザイン・セッション	学びの場のつくり方を学ぶ	9月25日(日)	東京	P.12～
ラボ	理事とともに参加者が自分たちの学びをデザインする 米倉誠一郎会長、鈴木寛理事、 児美川孝一郎理事、前野隆司理事	10月～11月に2回程度	東京	P.14～
	理事の専門領域を活かしたラボ	12月3日(土)：鈴木理事 4日(日)：児美川理事 25日(日)：前野理事 26日(月)：米倉会長	各大学	
授業の実践	ここまでの学びを活かし、生徒を対象に授業実践	2017年1月～2月	各学校	P.19～
実践の共有・修了式	実践の共有とリフレクション	2017年3月26日(日)	東京	P.21～



キックオフキャンプ



キックオフキャンプ（2016/8/8）の様子

【1日目実施内容】

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. オープニングガイダンス | 6. 写真のワーク |
| 2. チェックイン | 7. 仕事について振り返る |
| 3. 米倉会長 ウェルカムメッセージ | 8. 年表のワーク |
| 4. チームビルディング | 9. 「私の履歴書」執筆・共有 |
| 5. 「私の履歴書」感想ディスカッション | |

【1日目の様子】

全国各地から、プログラム参加者が一堂に会し、半年間のプログラムのキックオフとして、キャンプが行われました。

チェックインとして「どうしてここに来たのか」をそれぞれが伝え合い、プログラムをスタートしました。

前半では、米倉会長から、現代が抱える課題や、これから求められる人材像等を踏まえ、21世紀ティーチャーズプログラムに参加するメンバーに向けた、熱いメッセージをいただきました。

後半では、参加者がいまここにいることの原点を振り返るワークを行いました。

初めて会った仲間の中で、自分の人生を振り返り、うまくいったことだけでなく失敗したこと、思い通りにいかなかったことを文字にし、言葉にし、伝え合いました。

初日は、大自然の中で自分自身を見つめ、日頃気づかないことを感じたり、心の深いところや原体験をふりかえり、これから半年間にわたるプログラムを受けるための基盤づくりを行いました。



キックオフキャンプ（2016/8/9）の様子

【2日目実施内容】

- | | |
|------------|---|
| 1. 太極拳（任意） | 4. 対話の4つのモードを体験するワーク |
| 2. チェックイン | 5. よりよい未来と教育課題を考えるワーク |
| 3. システム思考 | 6. メンタルモデル、クリエイティブテンション、自分というリソースに関する講義 |

【2日目の様子】

二日目は教育の課題と未来についてみんなで考え、話し合っていました。

一人ひとりが思う教育の課題を全体に共有し、思いを同じくするメンバーが集まってチームを作りました。

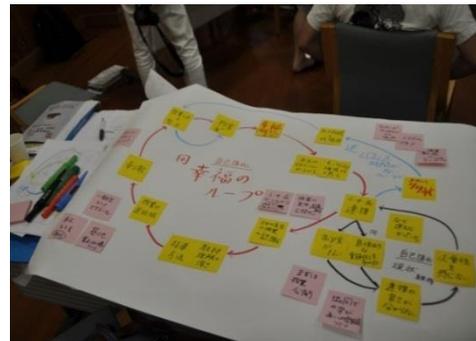
次にシステム思考を用いて課題の構造に目を向け、課題の原因や、どのようなシステムの中で発生している課題なのかについて考えました。

そして、そのシステムにおいて自分がどんな立場にいるのかということに真摯に向き合い、自分のメンタルモデルに目を向け、課題の当事者として解決方法を議論し、発表しました。

また、自分という最高のリソースを用いて、自身のビジョンをどう実現していくのかについても、語り合いました。

夜の懇親会では、教育や未来、そして子どもたちに対して熱い志をもつ者同士、大いに語り合いました。

夜中には理事の鈴木寛先生も合流し、教育談義は夜深くまで続きました。



キックオフキャンプ（2016/8/10）の様子

【3日目実施内容】

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 太極拳（任意） | 6. 鈴木理事 応援メッセージ |
| 2. チェックイン | 7. 振り返りワーク |
| 3. ハイポイントインタビュー | 8. ニーズを見つけるワーク |
| 4. ビジョニング | 9. チェックアウト |
| 5. グループワーク | |

【3日目の様子】

三日目の前半はメンバー同士がペアとなりインタビューを行いました。大自然の中をゆっくりと歩きながら、お互いがお互いのことを思い、相手の言葉に耳を傾け、自分の気持ちと、自身が描きたいこれからの未来に向き合いました。

その後、一人ひとりが描く、自分の理想の未来を粘土で表現していきました。感覚を研ぎ澄ませて創り上げた、自分の未来をお互いに伝え合う中で、様々な視点から、互いの考えを広げていきました。

そして、鈴木理事より、現在の教育改革の現状の共有と、先生方を応援したいという非常に力強いメッセージをいただきました。

午後には、これからのラボに向けたグループ分けと話し合いを行いました。目をつむって気の赴くままに歩きまわり、意志と偶然性を取り入れて行われた一風変わったグループ分けでした。そのグループを元に、12月に実施される理事とのラボについて検討しました。

キャンプの締めくくりとして、チェックアウトをし、その場を閉じました。どの参加者の言葉も一様に真摯で、どの方の表情も清々しく、未来への可能性にあふれていました。



ラーニングデザインセッション



ラーニングデザインセッション（2016/9/25）の様子

【午前の部】

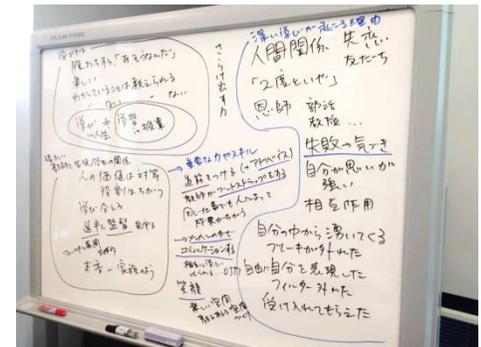
高い志と探求心に満ちた先生33名が、キャンプから1月半後に再集結しました。チェックインでは、「自分の変化を感じている」、「キャンプでの学びを現場で活かす難しさを体感している」といったコメントや再会できた喜び、これからの学びへの高揚感が語られました。午前中は「学びとは何か」、「自分にとっての最高の学びが起きた時、それはどうして起きたのか」、「理想とする学びの場における「教師」と「生徒」の関わりはどういったものか」ということを、それぞれの体験から考えました。そして「学びの場づくり」の基盤となる学習理論が、これまでどのように変遷し、いまどのような学習理論が主流となっているのか、それは何故なのか、その学習理論を現場で実践するためにはどうすればよいのかを学びました。やや複雑な理論と向き合う時間となりましたが、真剣な眼差しで力強く学ばれていました。

【午後の部】

午後は、トランスフォーマティブ・シナリオ・プランニングという、未来について考えるワークにチャレンジしました。まずは様々な領域の社会現象、未来予測に関する記事を読み込みました。そして「それが起こるかは不確実だが、起こったら未来を大きく左右する現象」を2つとりあげ、それぞれが起きた場合、起きなかった場合を想定し、どのような未来となるか、シナリオを書き上げました。

「円の暴落」や「移民の増加」、「大規模な災害」や「シンギュラリティ」、「戦争」など、幅広い領域から現象を取り上げ、豊かな発想でありながらもリアリティのある未来のシナリオが各グループから描かれました。

そして最後には、社会が今どういう状況なのか、そして未来がどうなっていくのかを踏まえて、その未来を生きていく子どもたちにはどんな教育が必要なのか、そしてその教育を実践していくために自分自身に必要な態度、スキル、知識、能力を考えました。



ラボセッション



すずかんラボ（2016/12/3）@東京大学の様子

【概要】

校種、教科の壁を超えて、プログラム参加者が6テーブルに分かれて、「『ワクワク感』・『主体性』を育む、2020年の学びに準拠した指導案」を作成しました。指導案作成の前段では、文部科学省に在籍するプログラム参加者より「21世紀型スキル」、「アクティブ・ラーニング」、「新学習指導要領」とは何か共有されました。セッションの最後に鈴木先生からは、「アクティブ・ラーニングを広めようとする学校現場からは『どうやって導入するのか！？』と言われるが、僕たちは4時間でアクティブ・ラーニング的な学びの空間を作るアイデアが出ましたと、確固たるエビデンスになった！」という言葉を受けました。

【参加者の声】

「校種を超えて授業案を考えることで、新たな発見があった！」
「4時間でここまで創り上げられるのだからもっとこういう時間をとりたい」
「この授業案を3学期に実践するのがほんとうに楽しみ」

【当日の様子】



児美川ラボ（2016/12/4）@法政大学の様子

【概要】

「日本の元気は先生から～「常識」というコリをほぐしてみませんか？」ということで、社会の常識、学校、教育に対してそれぞれが持っている「常識」を客観視し、自分の教師としての軸、そして未来の授業やこれからやりたいことについて考えてきました。児美川先生からはライフキャリアに関する講義をいただきました。また一日の最後には、日本の教育を引っ張っていくために、新たな企画を立ち上げ、チームをつくるワークをしました。そこでは、「オランダの教育研究」、「スタディーツアー」、「教員の労働時間調査」、「理想の学校をつくる」といった、本質的かつ積極的な企画の提案がなされました。

【参加者の声】

「自分自身の暗黙知の確認が出来て良かった！」

「常識のコリをほぐしてもらえた。未来に対しての変化の知識をもっともってほしいと思った。」

「概念を捉えておくことは大事だが、常識は多数決だと思うので固定観念にしばられず柔軟な発想で物事を考えていきたい。」

【当日の様子】



前野ラボ（2016/12/25）@慶應大学の様子

【概要】

前野先生の提唱する幸せの四要件（「やってみよう」因子（自己実現と成長の因子）、「ありがとう！」因子（つながりと感謝の因子）、「なんとかなる！」因子（前向きと楽観の因子）、「あなたらしく！」因子（独立とマイペースの因子））を元に、授業を作りあげるメソッドを考案。「自己開示」→「共有」→「共創」というフレームを使って、全員がそれぞれの授業案をつくり上げました。ワークの最後には、一緒にワークに取り組んだメンバー同士でのクリスマスカード（承認の言葉）の交換が行われ、終始幸福に包まれた会場でした。

【参加者の声】

「ワークショップ自体の場の設計と、ラボ生のAll OK!というスタンスに感動した」

「自分の意見を考えて、それを共有するところまではやっていたが、そこから「共創」に向かうというのが新しかった。このメソッドは授業づくりに繋がる」

「招待者として初めてこの場に参加したが、活気、皆さんのチームワーク、メンバー同士の思いやりに驚いた」

【当日の様子】



米倉ラボ（2016/12/26）@一橋大学の様子

【概要】

教育界の「Change Agent」になるという目標を掲げて、ワークの前半は「2030年にTI（Teachers Initiative）スクールを作るなら」というお題で、グループに分かれて理想の学校を考案。後半のワークでは、その2030年の理想のために、これからなにをやっていくかという「アクションプラン」をそれぞれが検討し、最後に2030年へのミッションを書き上げた。米倉先生からは、「理想の学校を考えてみたけど、今の状態だって、このメンバーが集まればきっと理想の学校になる。大事な人は人であり先生だ。」というお言葉をいただいた。

【参加者の声】

「もっと広い世界を知りたい、世界の流れを知りたい。広く人と出会っていききたい、だんだん大きくなる内なる声をどうしても無視できず一人で飛び出してみたら、飛び出すことを待っていてくれた場所と人たちがいた。」

「参加して下さった方々と2030年の学校をゼロベースで考え、教育について深く学び合える場になりました。」

「最後日とあって、1期生の仲間たちのこれまでの学びの叢智が結集され、共創されたビジョンはとにかく感動的でした。」

【当日の様子】



実践共有会



実践共有会（2017/3/26）の様子

12月まで各ラボでセッションを実施後、「21世紀ティーチャーズプログラムで学んだことをベースに、これまでやったことのない授業に挑戦せよ！」というミッションを受け取り、それぞれが所属する学校で、自分が受け持っている生徒に向けて授業実践を行ってきました。

授業実践に際しては、授業案を事前に作成して頂き、「生徒に届けたい変化」、「学んだ内容をどのように活かすか」という狙いをもって、授業を行って頂きました。

また、授業後には、「生徒の変化」、「授業実施からの学び」など振り返りに関してもまとめていただきました。

実践共有会当日は、授業実践の対象者別に2会場に分かれ、ミッションに対するそれぞれの実践を披露し合いました。

発表者は、授業実践による生徒の変化、そして、自分自身のプログラムを通じた学びについて、一人ひとりの気づきや思いを伝え合っていました。一つひとつの発表に対する質疑応答の中にも本質的な学びがありました。

また、発表終了後は、「印象に残っている体験」、「体験からの学び」、「これから教師として大切にしていきたいこと」について、対話しながら深めていきました。

MISSION

21世紀ティーチャーズプログラムで、
学んだことをベースに、
これまでやったことのない授業に挑戦せよ！

条件

1. 生徒の人生にとって有意義で本質的な変化をもたらすこと。
2. 教師としての願い、意図、仕掛けや工夫、期待効果が明確であること。
3. 自分自身がワクワクすること。



修了式



修了式（2017/5/21）の様子

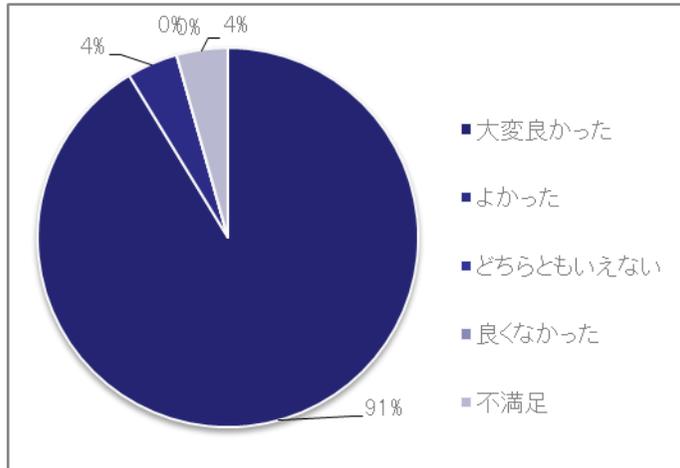
各理事から一言ずつ、ねぎらいと激励の言葉をもらい、プログラム受講者全員に対して修了証を授与しました。
この会の最後に、サプライズで寄付者の皆様に当てた感謝状も読まれました。



受講後の振り返り



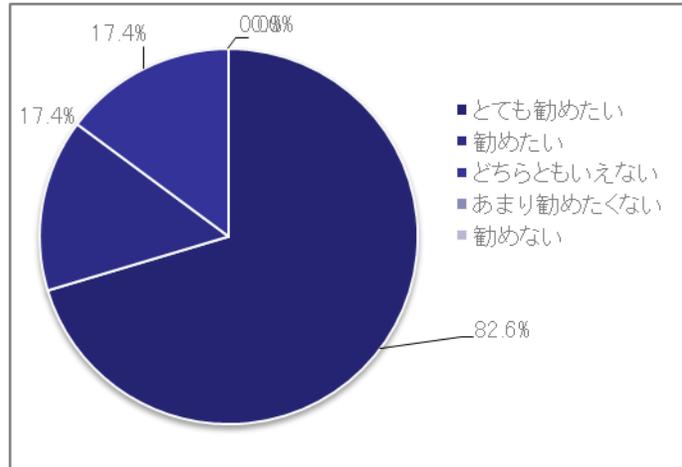
【プログラムの満足度】



【プログラムを通して学んだこと、気付いたこと】

- ・自分が何のために仕事をしているのか、あらためて問い直すことができました。
- ・自分の周りにはたくさんの「固定観念」があること、それにしばられてたのは自分だったということに気が付きました。周りが変わらないのではなく、自分が変わることで見える世界が違ってくる、という体験ができました。
- ・日常生活がどんなに苦しくても、この仲間と会って会話をすると元気になれる自分がいた。悩みを素直にうちあけられる友ができました。
- ・変えてもらうことに期待するのではなく、変えていく楽しさを学んだ。
- ・場作りの手法と重要性、ひとりひとりの心を開放する仕掛けやプログラム構成。現場の雰囲気染まってしまう欠けた自分に多くのことを気づかせて頂きました。
- ・最大の気付きは、教師は教えたい、生徒は教わりたいを断ち切って、生徒が学びたいという意識を育むことが必要だと思ったこと。
- ・今まで、現場の教育に対して、イノベーションやシステムなど考えたこともありませんでした。教育に対する様々なアプローチを学びました。今後も学び続けていきます。

【プログラムを勧めたいですか】



【勧めたいと考える理由】

- ・ 教員の人が繋がれる葉が少なく、心が窮屈になり、新しいideaが生まれないし、コラボレーションも生まれない。これを解決してくれるきっかけになる。すでに勧めています！
- ・ 自分や教育を見つめ直し、新しい自分や教育の可能性に目を開かせてもらえる。
- ・ 偏見なくどんなことも受け入れてくれる仲間がいるTIの環境は、再スタートを切るために理想的な場だと感じています。
- ・ 新しい知を想像し合える仲間が作れる。
- ・ 現場にいるたくさんのいい先生たちは現状に押しつぶされて後ろ向きになっていっています。先生が笑顔になれないと、子どもたちも笑顔になれない。本プログラムは先生たちの笑顔を作る場だと思うので、ぜひすすめてほしいです。
- ・ 志を有する仲間との出会うことができる。
- ・ 子どもたち、教師たち、社会を支えていく人々の元気の源だと感じたから。
- ・ 学校を超えた、未来に向けての学び合いができるプログラム。
- ・ 他では味わえない良さがある。
- ・ 是非参加して欲しい。日本が良くなるはず。
- ・ 教員なら誰でも知っている！くらいにしたい。



【受講後のインタビューで聞かれた声】

プログラムを通して自己肯定感がめちゃくちゃ高まりました。そこから余裕が生まれて、理想の学校を題材に職員室で熟議ができるまでになりました。

(三重県 中学校教諭)

プログラムを通じて、今後の未来を学ばせてもらったと思っています。未来を見据えて今現在どうしていくか、という視点を、いまの生徒たちにも考えてもらいたいなって。そういうふうに変化した気がします。

(東京都 工業高校教諭)

安心安全の場が体感できた。だからみんながみんなを大切にする。求心力がある人が進めるのではなくて、良さを引き出して、いいところ認めあってやっていけた。こうやって環境を作れば生徒も自分を開示出来るのかなって自分もこんな場作りを試してみたいと思えた。そうやっているいろんなことを気づかせてくれるプログラムだった。

(埼玉県 総合高校教諭)

先生も学びたいんだって、先生になって終わりじゃなくて色々学んでるんだって知れた。いろんな人がいて、もっとどうなったら良くなるのかっていうのを考えている人と出会えた。先生って意外と孤独なんでこういうコミュニティというか場があるよってことを、多くの先生に教えてあげたいなって思います。

(東京都 定時制高校美術科教諭)

魅力の一つは普通に学校にいたら出会えない人と出会えること。校種関係ない志が同じ全国の先生とか、あと企業の人とかNPOとか。もう一つは自分の成長。あの中にいるから成長できる。まだ足りないって感じられる。

(埼玉県 小学校教諭)

